ルクミー
スマート 保育園 幼稚園 こども園 通信
7 月号
2022 JUL

Contents 目次

特集：子どもたちの豊かな成長を写真に残し、保育者・保護者と毎月共有！
事例インタビュー1：心育保育園「写真販売で保育全体を見える化することは、園への安心感につながる」
事例インタビュー2：北柏保育園「たくさんの写真から、子どもの普段の様子が可視化される」
保護者アンケート：欲しいのは「自然な姿」月1写真販売のニーズはとても高い！
お役立ち情報：ルクミーフォトで撮影後、手元のアプリでも削除が出来るんです

子どもたちの様子を撮影し、連絡帳やドキュメンテーションに活用したり、保護者に写真を販売したりする取り組みを行っている園・施設さまが増えています。しかし、販売するまでの手間や準備について懸念があり、興味はあるもののなかなか写真販売に踏み切れない、というお悩みを抱えている園・施設さまもいらっしゃるようです。
そこで今回は、普段の子どもたちの様子を撮影し、ルクミーフォトを使って写真を販売している岡山県岡山市の心育保育園から村本先生、千葉県柏市の北柏駅前保育園わらびから小室先生にインタビュー。写真の撮影や販売をする目的や、保育への影響、保護者の反応などについてお話しいただきました。

事例インタビュー1：心育保育園
「写真販売で保育全体を見える化することは、園への安心感につながる」

1ヶ月に1回の写真販売を実施。

写真撮影は各クラスにiPhoneを1台ずつ置いており、スマートフォンのルクミーフォトアプリで撮っています。
ルクミーフォトを使った写真撮影は毎日、販売は毎月実施しています。園のパソコンにあらかじめ「4月撮影分」のように名前を付けたフォルダを作り、販売前に日々撮った写真を1ヶ月分まとめて移動し、担任の先生がチェックをします。連写でダブってしまった写真を削除する程度なので、1ヶ月分の1クラスのチェックは10分もあれば終わります。その後に事務の先生が写っている子どもの枚数に明らかな偏りがないか、バランスをざっと確認します。あまりに少ない子は少し追加で撮ることもありますが、基本は最初の削除チェックで十分です。そして、最後に園長が確認してアップします。翌月の20日には販売がスタートできるように動いています。6月の1ヶ月分の写真を、7月月初にチェックをして、7月20日に販売公開するイメージですね。

2ヶ月に1回ほどドキュメンテーションも作成していますが、そこで使った写真も省くことなく販売しています。ドキュメンテーションを見た保護者から「この写真が買いたい」と言われることも、よくあります。
また、「買い忘れてしまった」という声もたまにあるので、3ヶ月に1回程は過去のフォルダ分をまとめて再販する機会も設けています。

多くの写真を見せることで、保育全体を開示できる。

毎日連絡帳アプリで写真を添付しお送りしているので、販売の写真と一部重なる場合もあります。しかし、売れる／売れないではなく、保育全体の開示をするために必要だと思っています。何枚か同じシーンの写真が連なることで、1枚だけでは気づかなかった発見をしてくれるとうれしいです。
特に0歳児、1歳児の2年間は、目まぐるしく成長する時期ですし、親の目を離れて社会生活を送る第一歩でもあります。保護者としては、どのように過ごしているのか、朝送って離れるときは泣いていたけど、そのままずっと泣いているんじゃないか？と、とても心配だと思います。園で楽しく過ごしている写真を見せることで、園への安心感にもつながると思います。保育を見える化することはとても大切です。

© Unifa inc.

（子ども達が夢中になっている瞬間）

子どもの視点で面白いと感じた瞬間を、写真に残したい。

心育保育園では、行事の際に保護者へのプレゼントとして子どもの写真をお渡しする機会があります。新人の先生が、お渡しする写真を選ぶ際「カメラ目線の写真を選ばなくても良いか？」と質問されることがありました。写真撮影を「保護者サービス」と捉えている側面が強いため、カメラ目線のかわいい笑顔が良いのでは、と感じているからだと思います。
私は「保育としての写真なら、むしろ目線が合っていないほうが自然だと思うよ」と答えました。そういう写真があっても良いのですが、子ども自身が”おもしろい”と感じている「子ども視点の瞬間」を捉えるほうが、園での姿をそのまま伝えることができます。

日々の連続したシーンの写真が並ぶルクミーの販売ページを見て「うちの子の写真、バケツ、帽子、おもちゃ、さわっているものが全部赤色が多い！色の認識が出来る様になったからこういう反応になったんだね。」と小さな成長に保護者も気づけるようになります。

そういった反応を保護者から聞くことや、「撮る」瞬間を探しているうちに、新人の先生も“子どもの視点”で保育を見れるようになってくる瞬間が来るんです。
その時にいわゆる「良い写真」が撮れるのではないか？と思って見守っています。

保育は消えていく仕事なので、しっかり写真と共に残して記録する。それを保護者に伝えてあげる事で先生自身のモチベーションにもつながるし、子どもの次の保育にもつながっていく。その循環が大切だと思っています。

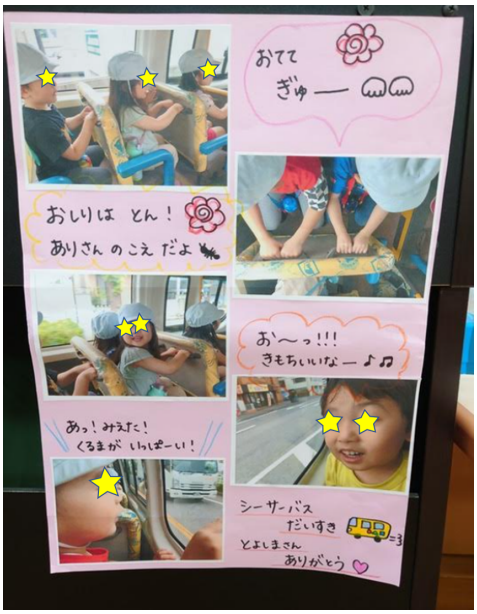
事例インタビュー2：北柏保育園「たくさんの写真から、子どもの園での様子が見える」

保育を可視化しようと、写真販売をスタート。

写真販売を始めたのは、保護者から「行事だけではなく、普段の様子がわかる写真がほしい」と言われたことがきっかけです。確かに、子どもたちの成長や日々の活動の発信量が少なかったので、写真を使って可視化しようと思いました。
しかし、以前は「(1)写真データを業者に持っていき　(2)簡易的なアルバムに入れて保護者に見てもらい　(3)ほしい写真に名前を書いてもらい　(4)数えて　(5)焼き増しして　(6)取りに行く」という一連の流れがすごく手間で、写真係の先生が残業して処理していました。写真の入れ間違いや注文ミスもあり、保護者とトラブルになったことも。そこでルクミーフォトを導入したところ、手間や時間が削減できて、保護者の注文ミスにも関与しなくて済むようになったので、写真販売の負荷がとても軽くなりました。

写真を選別するよりも、園での様子や活動の全体を見てほしい。

撮影は各クラスに1台あるiPadと、スマートフォンのカメラで撮影しています。
それぞれの先生が好きなときに撮るので、各クラスに複数人の撮り手がいることになり、1日に200枚ほどの写真が集まります。写真は連絡帳、ブログ、ドキュメンテーションに活用しています。特にブログは保護者の方も見てくれているので、そこから会話が弾みコミュニケーションを深めることに役立っています。
写真販売は、2か月に1回のペースで実施しています。特に「これはブログ用」「これはドキュメンテーション用」などと分けずに、簡単なNGチェックをするだけですべて開示しています。チェック自体は、撮影に使ったスマホとiPadで、“鼻水”や“ブレ”をルクミーフォトアプリの中で消しています。フォルダの名前もアプリでその日の内に付けています。チェックすること自体がその日の保育の振り返りにもなっているので、負担に感じたことはなく日々の保育の一環になっています。
子どもの枚数のバランスはあまり気にしません。そもそもたくさん枚数があるので保護者の満足度が高いですし、「園全体の様子が分かって良い」と、好意的に捉えてくれる方が多いように思います。



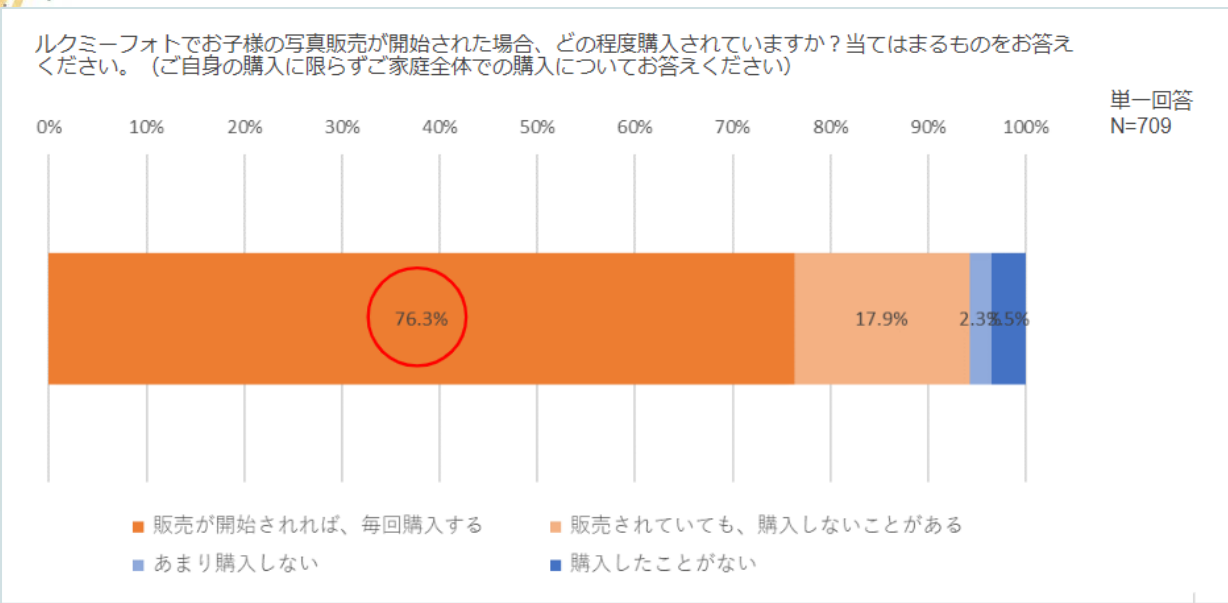
（ドキュメンテーションで掲示した写真も、そのまま販売）

写真を通して子どもの幸せな顔をたくさん見て欲しい。

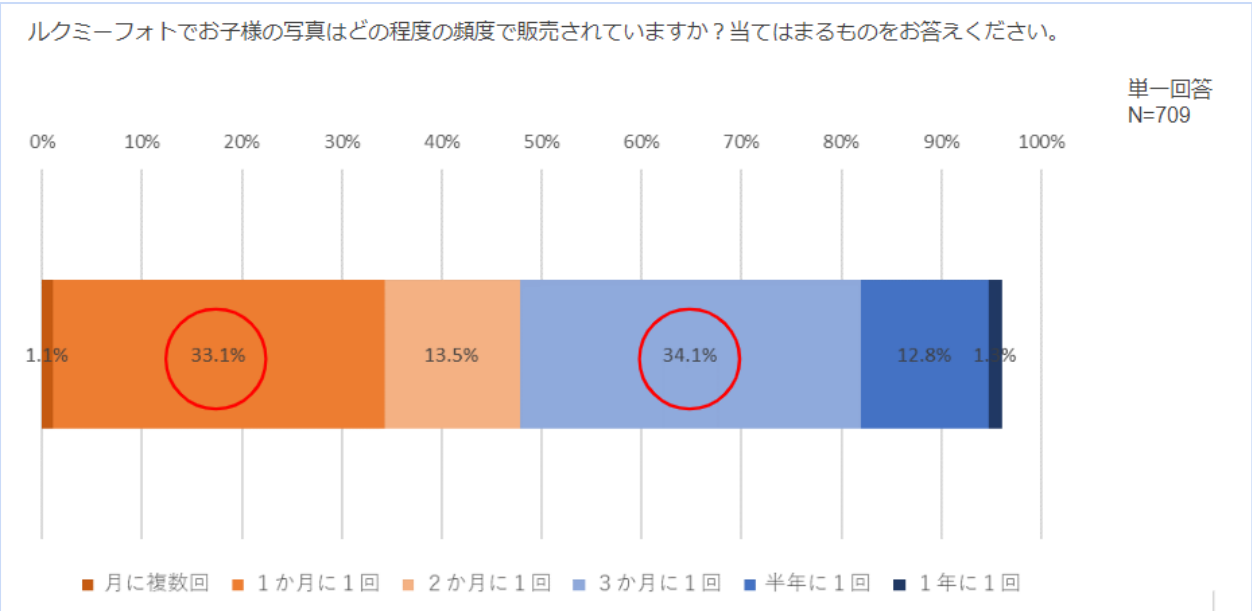
0歳児、1歳児の小さな子どもは、成長度合いが個々で異なります。そのため、ひとり遊びや成長が見える個人の写真が多くなる傾向があります。3歳児以降の大きい子だと、友だちとの関わりが見える写真が多くなりますね。子どもが「◯◯ちゃんとケンカした」と話したとしても、保護者は写真でお友だちとの関わり方を理解して、「仲が良すぎるからケンカするんですね（笑）」と言われたりします。写真は嘘をつかないですよね。保護者の方には、写真を通して子どもの幸せな顔、保育園という社会で育つ姿をたくさん見てほしいと思っています。

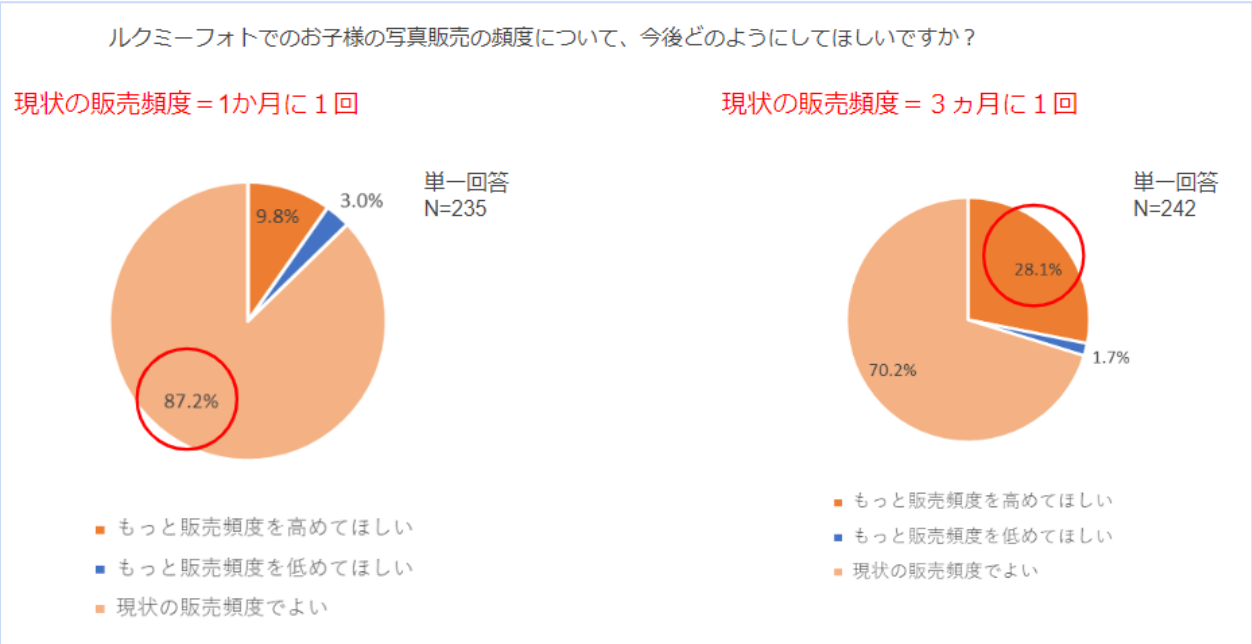
保護者アンケート：欲しいのは「自然な姿」月1写真販売のニーズはとても高い！

保護者の方々は園・施設からの写真販売についてどのように感じているのか、アンケートを実施しました。
販売写真は「毎回購入する」と回答した人が76.3%と約8割も。保護者にとても人気が高いことがわかりました。



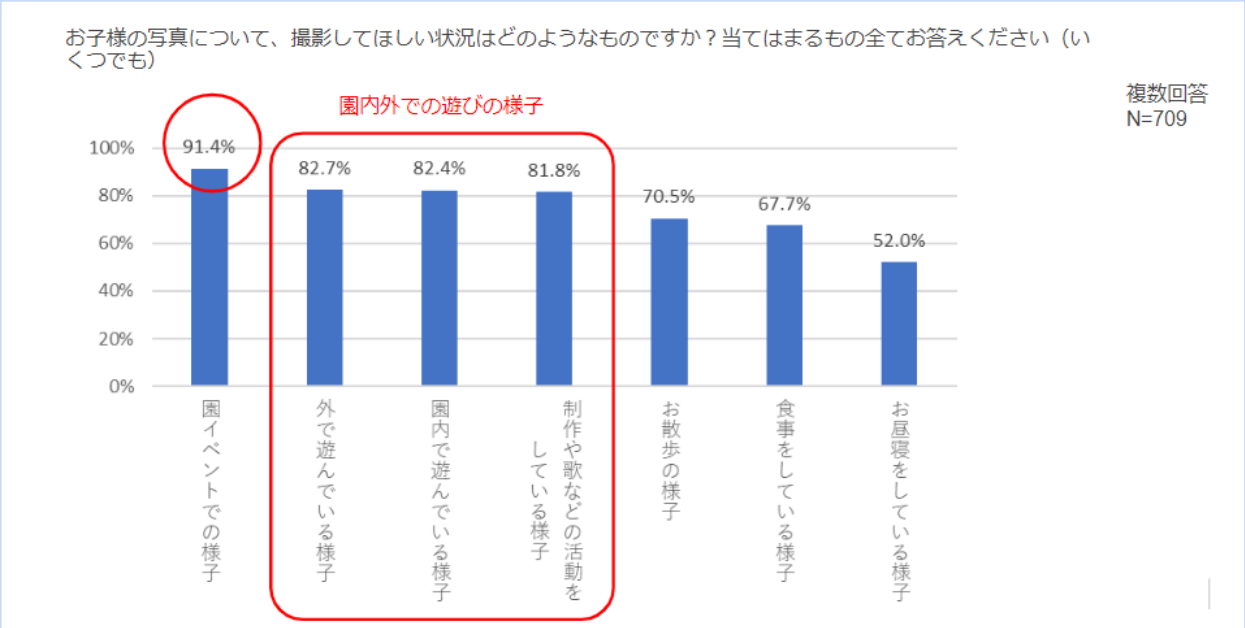
また、販売頻度は「1ヶ月に1回」（33.1%）と「3ヶ月に1回」（34.1%）が多いですが、「1ヶ月に1回」の方が保護者の満足度が高い結果となりました。「3ヶ月に1回」だと、もっと頻繁に販売してほしいとの声が高まるようです。





© Unifa inc.

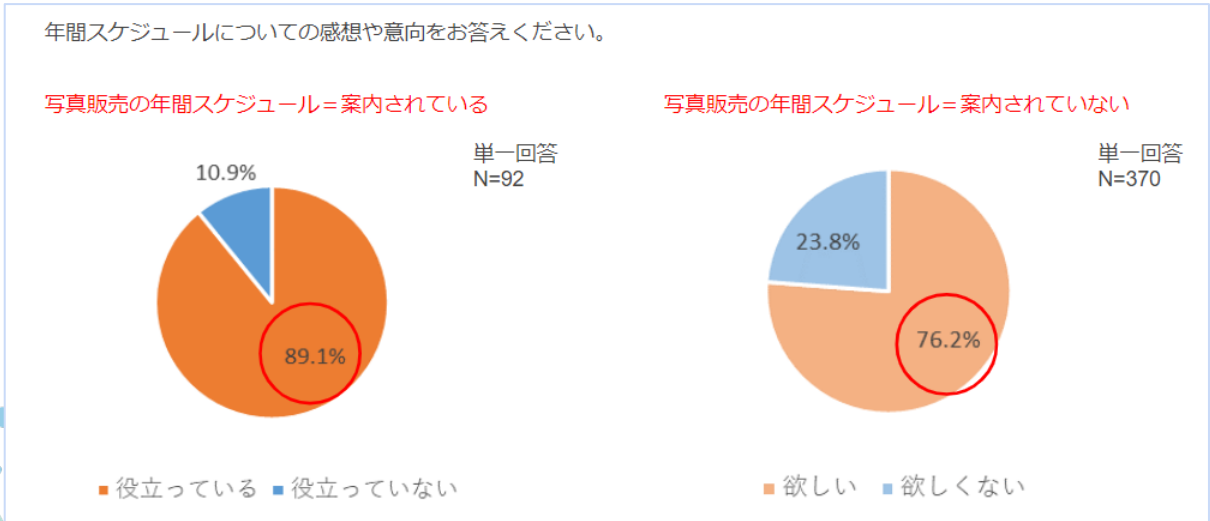
ほしい写真は「園イベントでの様子」が1番目で9割以上を占めますが、「外で遊んでいる様子」「園内で遊んでいる様子」「制作や歌などの活動している様子」も8割以上と、普段の園生活の写真も強く求められています。また、「お友達と写っている写真」「自然な表情の写真」など、子ども1人で写っていたり、カメラを意識していたりする写真ではなく、園生活の一部を切り取ったような写真が望まれているようです。



具体的には、以下のような声が多く挙がっていました。

「お友だちと一緒に遊んでいる時の自然な表情が見たいです。園でどんな風に過ごしているか見られないので、そんな写真はとても貴重です。」
「さあ写真を撮りますよ！みたいなのも欲しいですが、自然体で日頃どのように保育園で過ごしているかわかるような写真が欲しいです。」
「イベントの時の写真が多いので、給食を食べているところや、お昼寝中など、普段の様子を撮ってほしいです。」

ちなみに、園・施設から販売の年間スケジュールを案内されている保護者は、13.0%とまだ少数でしたが、案内されている保護者のうち約9割の人が「役立っている」と回答しています。案内されていない保護者からは「（年間スケジュールが）欲しい」と8割の方が答えています。ニーズはとても高いので、「毎月、前月の写真を月末に販売します」等、計画を立てて保護者に共有してみてはいかがでしょうか？
1年間のスケジュール立ては難しい…という園・施設さまは、「次回は8月に販売を予定しています」などのお知らせだけでも喜ばれそうです。



お役立ち情報：ルクミーフォトで撮影後、手元のアプリでも削除が出来るんです

現在デジカメ、スマホの通常カメラで撮影されていませんか？ルクミーフォトの専用アプリで撮影すればWi-Fiを通じて写真が自動アップロードされるので、パソコンにSDカードを差し込まなくてもよく、業務がとてもスムーズ。しかし「ルクミーフォトの専用アプリで撮影してしまうと、写真のチェックが手元ですぐに出来ないから使っていなかった」というお声を聞く事があります。実は、ルクミーフォトの専用アプリの中でも写真の確認・削除が可能なんです！ぜひ以下の手順で試してみてくださいね。

撮影アプリを立ち上げていただき、右下にあるメニューボタンからイベント編集をタップしてください。